




令和 4 年度 施策評価表

施策	0301 歴史・文化の保護・活用・継承	施策担当部	教育委員会	部長	川下隆治
		施策担当課	文化振興課	課長	大野安生
施策の方針	貴重な歴史遺産である文化財の保護・活用や、各地域で継承されてきた民俗芸能等の保存・継承を推進する。 また、歴史資料館において、郷土の歴史に触れる機会の充実を図る。				
関連するSDGsのゴール	  				

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R3年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 指定文化財の数	件	53	54 55	56	58	60	62	101.9%	88.7%
② 民俗芸能の保存団体数	団体	20	20 20	20	20	20	20	100.0%	100.0%
③ 大村市歴史資料館の入館者数	人/年	30,305	50,000 29,157	35,000	40,000	45,000	50,000	58.3%	58.3%
④									
⑤									

施策達成状況の説明

指定文化財の数は、指定の追加がなく前年度同数となった。
 芸能団体は現状を維持した。
 歴史資料館入館者数は新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、前年度よりは増加したが、目標には到達しなかった。

施策経費

(単位:千円)		R3年度 決算	R4年度 予算	R5年度 見込	特記事項
内訳	事業費	57,007	58,395	194,545	
	国庫支出金	6,335	7,500	8,000	
	県支出金	1,141	1,501	1,601	
	地方債	0	0	0	
	その他	1,393	1,961	1,775	
	一般財源	48,138	47,433	183,169	
	人件費	37,874	38,973	—	
フルコスト	94,881	97,368	—		

施策の概要（細施策）

030101	文化財の保護・活用	本経寺や旧円融寺庭園をはじめとする歴史遺産を後世へ継承するため、文化財の計画的な調査・研究、保存に努めるとともに、重要なものについては文化財指定を進め、保護を図ります。 また、文化財は個人所有のものも多く、その保護には市民の理解、協力が必要となることから、その存在や価値を広く周知するための情報発信・活用を進めます。
030102	民族芸能等の継承	伝統文化を受け継ぎ、郷土を愛する教育の推進を図るため、国指定重要無形民俗文化財に指定されている「大村の郡三踊」（寿古踊・沖田踊・黒丸踊）をはじめとする民俗芸能や伝統行事について、後継者や指導者の育成支援や記録保存を行います。 また、「大村の郡三踊」について、令和4年度のユネスコ無形文化遺産への登録を目指します。
030103	郷土教育の充実	多くの市民が郷土の歴史に関心を持ち理解を深めることができるよう、郷土史講演会などを開催します。 また、小・中学生の頃から郷土史に詳しく触れる機会を設け、郷土愛の醸成を図ります。
030104	歴史資料館の充実	郷土の歴史に触れ、貴重な歴史遺産を後世に伝える施設として、歴史資料館における保存、展示、教育普及などの活動の充実を図ります。

【CHECK（評価）施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

指定文化財の指定作業は対象が有形文化財から史跡に変わり、難易度が大幅に上がった。時間も経費も要することになる。歴史資料館は新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが推測されるが、来館者増を図るため、魅力ある展示や普及活動を企画し、情報発信を強化する必要がある。

【ACTION（改善・改革）】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

文化財の指定作業は専門家の指導を受けながら、関係者への説明を丁寧に進める必要がある。

年4回の企画展及び特別展の開催を継続する。秋の特別展では図書館と連携した講演会等を開催することで、情報発信の強化とともに来館者層の掘り起こしを目指す。

令和5年度新規事業

	事業名	担当課	令和5年度見込	対象・事業概要など
			事業費（千円）	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	